

友子…みほさんとは、私が議員になる前から一緒に活動してきましたが、みほさんって本当にいろんな経験をしていますよね。

みほ…大学出てから、国際NPOやピースボートの活動をして、世界の国々で苦しんでいる人々と直接会合の中で、支援することの難しさに直面しました。そんな体験が政治に関わることを意識した強烈なバックグラウンドになっています。

友子…そんな世界を見てきたみほさんだからこそ、地域でも感じることもあるんじゃないの？

みほ…政治には常に関心をもってきました。子育てしていると、いろいろ疑問に思うこともあるんですよね。例えば、子どもの医療費完全無料化とか、親が育休中に上の子は保育園から退園しなければいけないこととか、学校で子どもたちがどのくらい能動的にできているか、とか。

友子…育休退園については、私も多くの保護者に相談を受け、議会で質問もし、会派でも要望してきました。



保護者会からの要望もあり、結果的に、今年度から育休退園はなくなり、上の子も継続して利用することができようになったんです。

みほ…学校のこと、文科省は子どもたち一人一人を尊重し、探究する力を重視するという、理想とも思えるような指導要綱がありますが、それが子どもたちに伝わっているか、

疑問に思います。不登校の児童生徒の多さが語っていますよね。佐久市でも350人近くの不登校の子どもがいるということに驚いています。

友子…私も不登校の子どもたちが第二第三の選択肢があればいいと思い、これまで研究や提案を続けてきました。親にとっては本当に深刻な課題ですよね。

みほ…政治って本当に身近なものだし、日常なんですよね。そこで、子どもを真ん中に捉えた「こども人会議」というものをスタートしました。子どもの未来を考えることは、私たちの暮らしの全てに繋がってきます。子どもが健やかに育つためには、そのサポートをする親世代が元気であることが大切。子どもを地域で育てるためには、働き世代の若者が生き生きと活躍し、見守ってくれる年配者の方たちの心身の健康もとても大切ということです。

友子…私も「地域全体で子育てを」を政治モットーとしてきましたが、子どものことを考えるということは、

大人や年配層の心身の健康も含めて、すべての人々の幸せを考えると、ことですよ。私の場合、動物もそうですね。猫のような、人間に頼っている生き物に優しくできるという社会は、人間の中でも「弱者」と言われる人たちに優しくできるということなんですよ。

みほ…動物も同じですよ、同感です。また、これからは環境のことや、食のこと、農業のことなど課題はたくさんありますね。

友子…本当に課題はつきないし、政治は継続していくので、これからもみほさんの「みんなのできる幸福度100%の街」に期待しています。

